

《出席者》

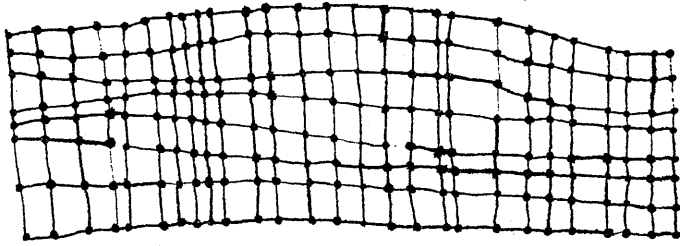
大 槻 虎 男
津 山 尚
柳 田 為 正
今 井 百 合 江 子

司 会 津 守 真

津守 関東大震災で校舎が焼失し、ここ大塚に移転してまいりましたが、その時、お茶の水時代の樹木も向うから幾らか持ってきたらしいんです。ところが、近年、学内ではあいついで改築・新築があり、木が移されたり、また切られたりもしているものですから、今のうちに、皆さんから、いろいろ伺っておくことは、意義のあることではなからうかと思いました。学内の植物をめぐって、どうか御気軽にいろいろお話いただければと思います。

それからさきほど津山先生から御提案がありまして、話しているだけでなく、実際に学内を歩いてみると、いろいろ思い出すんじゃないかと言われるものですから、この座談会の後、ちょっと歩いていただいた方がいいかと思っております。

では、昭和八年にこの建物（まよ）ができてそうですね、まず正門（今・東門と言っていますけれど）を入れて、ずっと並木があつて……そのあたりからお話を伺えたらと思います。



《座談会》

お茶の水女子大学の植物を めぐって —身近な樹木の話—

[昭和57年4月16日に、家政学部小会議室
で行なわれた座談会より]

イチヨウ・キンモクセイ・お茶

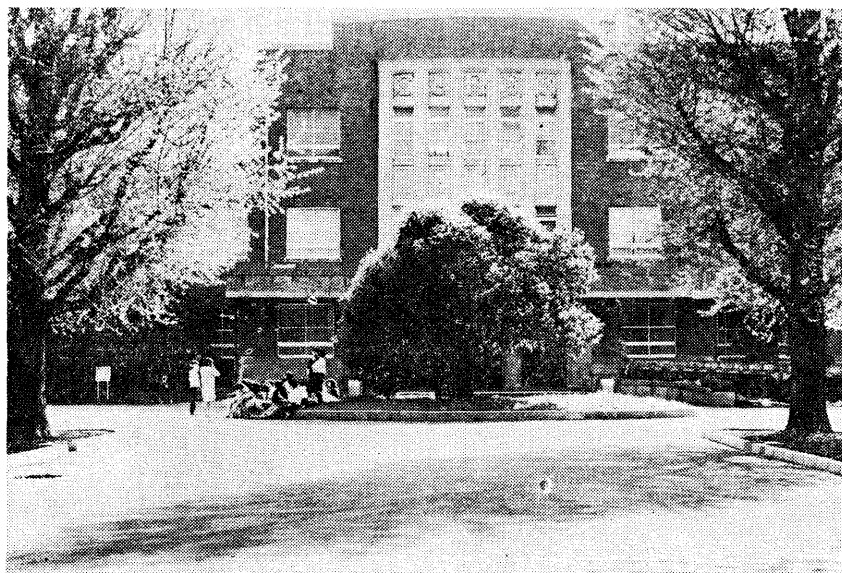
大槻 正門から入ったところに、イチヨウの並木があります。どういういきさつで植えたのか、私はその時、就任して間がないのでよくは知らないですけれど……まあ、東大正門のイチヨウ並木あたりからの着想かも知れませんね。

それと、玄関前のキンモクセイも最初からあった。この木を植えるという事は保井先生が提案して、尾上柴舟先生が口をきかれて厚木の農家から移植されたということですね。

今井 それは保井先生がお話しになったんですか？

大槻 ええそうです。モクセイは、東京都内ではあまり大きく育たないんですが、神奈川県には、見事な大木が沢山あって、そしてよい香りがするということですね……。

津山 キンモクセイっていうのは園芸的に中国で出現したもので、実はありません。親は、ウスギモクセイといふので九州の南部や中国の東南部に野生があります。東京は寒すぎるんです。なかなか、この大学の樹のよう



東門のイチョウ並木とキンモクセイ

には大きくはなりません。中国名は「丹桂」です。

大槻 イチョウは丈夫ですがキンモクセイは、適地でないところに移植されたきらいがあるんですね。また戦時中、手入れが行きとどかなかったので、キノコが発生してしまいました。キノコがはびこると木がいたむ。それで幹の上の方半分は枯れてしまった。

津山 その後ひじょうに弱りがひどくなりましてね。どうしよう、どうしようって、結局、評議会の問題にまでなりました。大学のシンボルのような樹でしたから。でも別の樹にとりかえるというのもいい案がなくて、親木の横に若い樹を補植したわけです。ホルモン剤をまいたりして、やっと元気を回復し、花が咲きはじめましたね。大槻先生の今の、その悪くなったというのは、戦後ぐらいでしょ？

大槻 ええ、そうです。補植をするもっ

と前です。適しない土地ということに加え、公害がひどくなったんですね。囲いを設けたりしました。結局、二本の小さなキンモクセイを補植することになりました。これは実は私が提案したんです。藤田健治学長の時に、それを教授会にかけたわけですが、例によってなかなか通らなかった。けれども、藤田学長の決断で、私の家の庭にあった二本を移したわけです。

津山 ああ、そうだったのですか。
大槻 ええ。これはね、ヤミ取り引きをやったんですよ。(笑) 教授会の正式の決定ではなかった、しかし別に苦情の申し出はなかったわけですよ。(笑)
それから昭和四十年頃旧図書館の脇にお茶の木と、クロマツを私の家の庭から移植したこともあります。どちらも図書館の新築移転に際してなくなっていました。お茶の木の方は今日の話題になるんじゃないかと思いますが……。

お茶の水女子大学なのにお茶の木がなかったわけです。これには理由がある。それはお茶の木には、茶毒蛾^{チャドクガ}という害虫がつくんです。この幼虫は毛虫です。これに刺されるとひじょうに痒いし、不快です。幼稚園のある学校では特別に気をつける必要があります。

茶毒蛾って、椿にもつくんですか？
津山 はい。そうです。

大槻 保井先生はこれをよく知っていて、その話が出ると反対したものです。これが女高師時代に茶を植えなかった主因でした。保井先生の発言力は強かった。ところがね、そのうち校名が女高師からお茶の水女子大学になって、ここの校章を何にしようか、というときは茶の花が取り上げられた。

今井 桜の花にしようかって……？

大槻 それまでの校章は桜の花の中央に三種の神器の勾玉が配されたものだったん

です。お茶の水女子大学になった時に、先生達も学生も旧態を脱却しようっていう空気があったんでしょね。そのひとつの表われで、校章も新しいものにしようっていうことになったんですね。そこで、お茶の花が候補に上った。それで、津山先生がそれを描かされたんです。

津山 でも、採用されなかったですよ。

(笑)

今井 では、現在の校章は、先生がお描きになったものではないわけですか？

津山 描いたには描いたんだけど、やっぱり素人じゃね。デザインの専門の人に直してもらって、ただ実物と矛盾しないかっていう相談があったけどね。

津守 それでは、お茶の木はこの学内には一本もなかったわけですか？

大槻 そうです。石神井の家に一反歩の庭があったので、家政学部の山西(貞)さんに頼んで、狭山から苗木をもらって、植

えたんです。一時、手製のお茶を作ったこともあります。それで、私が図書館長になった時、自分で掘ってきて移植しました。これはその後あんまりいい扱いを受けなかった。

津山 結局、絶えましたね。

今井 私はお茶の花が好きなので、大事にしていたんですよ。種子が落ちると、よく下に埋めておいてやったんですよ。旧食

化研の玄關脇にかすかながら残っていたんですけど。ついにあの辺りの木造が取り払われて、今の理学部二号館ができ、それで殆んど整理されてしまっ……。

大槻 井上前学長は、植物が好きで、努めて自分で植物を選定したりしたようですよ。

津山 好きなんです、あの方は。

大槻 お茶を植えてほしいと思っていたんですが、でも、やめちゃって、残念です。津山 井上さんの名が出たのでちょっと

申しあげますがね、今、東門から入って左の、附属小学校新校舎、あその角には前、大きなヒマラヤ杉がありました。それでね、やっぱり公害のせい、あの実がならないんですよ。ところがある年にね、一つだけなつた。きれいな浅緑のね。それを発見したのが、井上さんなんです。それでね、なかなか御自慢だったんですよ。

オリーブ・大イチョウ・クヌギ

大槻 これは、それに関係あるわけでもないけど、オリーブの木ね。これ最初に植えたのは、蠟山学長。学生運動がまだ盛んだった頃、学長に就任した。それでね、学生運動への対応として、構内の緑化計画を考えた。芝生を整備したり、食堂の前の高台を芝生にしたりね。その時、小豆島のオリーブの苗を学内寮の前に植えたんです。育つかどうかわからないと言われながら。

津山 実がなってますね。

今井 学生会館への坂道をこちらから上って行くと奥の方で、実がたくさんありますね。特に食物科の福場先生はあれを塩づけにして、瓶詰にしましたよ。今年もいただきました。

大槻 二年前の夏に、井上前学長の部屋で、オリーブのピクルスを戸棚から出して試食させてくれました。こんな寒い所でよく育ったものです。

津山 わりあいだね。お茶大は場所が高い所でしょ。だから、他の場所より寒いんですよ。

大槻 オリーブは、高いところ、乾いたところがいいんですよ。

柳田 本家本元の小豆島でも、最近あまりうまくいかないという話ですね。

津守 それからずっと幼稚園の方へまいりまして、幼稚園の中、あるいは周囲の植物について少しお話を進めていただけますか？

か？

津山 そうですね、幼稚園の門の前に、モチの木が数本ございますね。あれは、雄と雌がうまく植わっていて、実がちゃんとなっていますね。わかって植えてありますね。

今井 幼稚園のフジはお茶の水から移植してきたといえますけど……。

津守 そういう話を聞いているんですけど、事務棟に近い側だね、大きな棚がございますね。

今井 あの幼稚園の藤とは別ですが、これはどこから移植したのかわかりませんが、ここの本館の屋上に木造の、白いフジ棚があり、その下にベンチがありましてね、そうちょうど外から見ますと、建物の中央のところに国旗のポールが立っておりまして、あの辺りの屋上にもつと籠んだところがありました。そこにパーゴラ風になっていました。戦後かなり後まで残って

おりましたが、最近全く取り払われてしまいました。

津守 それは向うのお茶の水の校舎から持ってきたもののですか？

今井 それはわかりません。幼稚園のほどそんなに大きなものではなかったような気がしますけど。

津山 思い出しますのはね、裏手に小さな通用門がございましょう。そうするとあの垣根から幼稚園の方に斜面になってますね。あそこに、昔の本当の自然の植生が残っていますね。それは貴重なものだと思います。ベンダが残っているんですよ、行ってみればわかりますが。

柳田 幼稚園といえれば例の大イチョウの一件、これだけはぜひとも津守先生のお口からあらためて直々お話しいただきたい。

津山 あれは、昔、大イチョウが二本あったんですよ。一本は学外の外人教師の官舎にあったのです。それが暴風の時に大枝

が落下したのです。というので根元から切っちゃったんですよ。それで大イチョウは一本だけになったんです。

柳田 切った人足さんが怪我してますよね。祟りかといわれたそうです。

津守 ああ、そうですか。

津山 昔こころは陸軍関係の土地だったんでしょ。今、跡見あたりの古いサクラなんか、みな、昔、軍が植えたんですよ。イチョウもそのたぐいだったと思いますよ。

柳田 あの頃植えたんですね。

津山 あの頃からあったものです。話とはびますが、グランドの外側に近い方に大きなクスギがね、あれは、ひじょうに古いもんじやないかと思うんですよ。

今井 グランドに近い？

津山 ええ。古い地図を見ると、護国寺の隠居所になっているんですよ。ですから僕は、その頃の名残りの木じやないかと

ね。あれは大事にしてやりたいですね。

今井 私どもが学生で入った時に、英語の曽根保先生がね、まだお若いからって、上級生の四年生に大変きれいな方がいらっしゃいましたね、その方、曽根先生の英語のファンでらして、で、そのあたりで英語の演習なんかを教えていたのだい……。あれは、「瞑想の木」って言われてました。その木の下にベンチが二脚ぐらいいりまして……。それから民家との境のコンクリートのところに萩があった、そしてその萩をくぐって……

大槻 あの火薬庫の後についているのは、のちには兵隊などいなくなつてね、葛の蔓が一面に生い茂つた、行くとね、雉こが飛び出す藪くさだったんですよ。

今井 花火を作っている製造工場のまわりに土手がありますでしょ。それと同じような火薬庫の土堤が寄宿舎の外囲りにありました。ですからあの藪には本当に松虫が

いましたね……(笑)……鈴虫もいるし、たまにはクツワ虫もいますけど、松虫のチンチロリンっていうのを私は初めて、あそこでききました。月見の晩は、あの土手に松虫を聞きに行った。

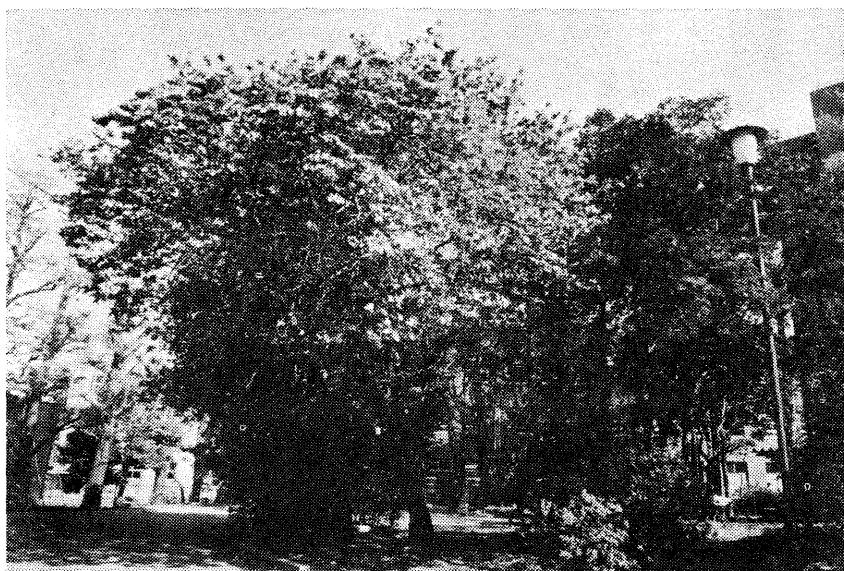
大槻 昭和十三年か十四年頃ですか、今のお話は。

今井 私が入学した年ですから、昭和十一年ですよ。(笑)

ニシキモクレン・ケヤキ・ムクエノキ・ゲツケイジュ

津山 雉はね、時々、護国寺の方から飛んで来るようですよ。今はどうかわかりませんが、せんけど、数年前まではそういう話でした。

大きな木で、僕、覚えているのは、中学校にぶつかつたプールの角ですね、あそこにはモクレンがあるでしょう。あれは変わったモクレンなんです。ニシキモクレン



ニシキモクレン月桂樹

って言うんです。白モクレンと紫モクレンの雑種です。

今井 あノモクレンは保井先生の実験にね……。

津山 そうなんです。保井先生が使っている。

大槻 プールぎわの木といえば、ケヤキとムクエノキの大木——鳥がムクエノキの実を食べに来て……

津山 ケヤキ……あれはりっぱなものですよ。

大槻 鳥が糞をして、プールが汚くなってるね。

今井 プールのちょっと手前に今は駐車場か何かございますでしょ。あそこのあたりに附属女学校の弓道場がありますね。——（本校の方の弓道場は、今の生協のあるところにごさいました。）そのそばに、ちょっと洒落た売店がありました。その脇に一本、月桂樹があった……

大槻 月桂樹、よかったね。

今井 それから近くに、アカメガシワが……、アカメガシワの話は後年久米先生がよくしていらした。（笑）

津守 どういうお話なんですか？（笑）

柳田 大槻先生の武勇談のお話ですか。（笑）

大槻 戦争中、私の研究室では学徒動員でペニシリンを作っていて、警報が出ても遠くには行けず、窓の下に



ブルギワのケヤキ

防空壕を作って、そこに逃げこんだんです。壕を作る木がなくて、近くの庭木を切ったね。全部切ったんじゃないくて、途中から二本出ている、片方だけを切ったんです。ところがね。僕が木に登って鋸でゴシゴシやっている所に下村校長が通りかかったのです。救護部長が、国有財産を切ったといつて、校長が額にすじを立てて怒つたね。飯本先生がなだめて、その場はおさまったがね。(笑)

津山 まあ、アカメガシワなんて雑木なんですすよ、切つても切つても大丈夫なんですすよ、(笑) 同じ国有財産でもね。東門のイチヨウ並木のうち門衛所に近いところが枯れ始めましてね、何とかならないかと、専門家を呼んできたんですよ。やっぱり皮が剥けて、キノコが出ていた。そして、その人いろいろやってくれたんですけれど、だめだったんです。その後わかったことは、地下でガス管からガス洩れしていた

んですよね。ですから、キノコがつくつていうのは、第一次の原因じゃないんですね。弱つてどうにかなつちやつたから、ついでと。それで昨年の大工事になったわけですよ、あれでまあ、きれいになった。それからもうひとつね。これは学外のことですけれど、桜蔭会館のところにアカガシがあったんですよ。大きな、こんなに太い……

今井 ああ、ございましたね。

津山 あれはね、どうやらもつてたんですけれど、とうとう枯れましたね。枯れたんですよ。結局、公害だと思えますね。カシのうちでも、アカガシが一番立派なんですよ。

大槻 アカガシはあまりないんじゃないですか？ シラカシは多いけど。

津山 シラカシは強いですね。アカガシはちょっと弱いんですね。

津守 もとの大学本館裏今の家政の大学

院のところに、ずっとシナの木が一行にあつたんですよ。

今井 えーと、あのこぶし……？

津守 こぶしですか？

大槻 こぶし……花が見事でしたね。

津守 あれは、消えちゃつたんですね。

大槻 戦後家政学部増築のとき図書館の庭に移植したんです。今はどうなつたでしょう？ 図書館が、またああいうふうに変りましたからね。大木の移植には大変苦労したんです。

津守 何本か枯れたのは知っているんですけどね。今、南門のところに二本ほど……

大槻 それは、また図書館の方から移植したんでしょうね。図書館のは一応ついたんです。ずいぶん傷んでおりましたけど、勢いがなかった。

津山 結局、大学の建物の設営が優先しますね。ですからいつも急に来るわけ、移

植の時期じゃないわけです。ですから移植が非常に金がかかるわけで、あの楷の木がそうでしょ。あの話を大槻先生してくれませんか？ いつ頃でしたか？

楷の木・チューリップの木

大槻 女高師の植物学科は、保井先生と、矢部吉禎先生とで担当しておられたんです。矢部先生が東京文理科大学が出来た年に、そっちに転任になった。その後任に私が、ゆくことになった。矢部先生は日清戦争の後、北京の大学に招聘されて当時の清国の植物を調査された方です。その標本は女高師の標本室に残っていました。山東省の主都曲阜にある孔子誕生の地に建てられた孔子の廟の庭に一本の木が、聖木として植えられています。それをね、「楷の木」といい、孔子のシンボルのようになってるんです。

津山 複葉なんですけど、ひとつひとつの小葉の配列がきちっと、ととのつていゝ。楷書の楷と関係があるといひます。

今井 新葉は、あれきれいですね。いい色ですよ。

津山 先生、それはどっから持ってきたんですか？ 湯島じゃないんですか？

大槻 先生はその頃中国の大学と女高師の兼任だったようです。それでね、中国から持参した楷の木は半分は湯島聖堂に、半分は女高師に植えたようです。昔のお茶の水の校舎は、湯島のすぐ近くだったんです。湯島聖堂に植えるのが主な目的で、自分の勤めている学校にも植えたというようなことだったと思います。実ができませんね。

津山 雄、雌があつて、ここは雄なんです。

津守 むこう、お茶の水からこっちに持ってきたんです。

大槻 現在の家政学部の方にね、コブソがあつたと同じところにね。

津守 今もまだありますか？

大槻 昔の図書館の庭に移植し、さらに今の図書館の玄関の向つて左側に植えてあります。

津守 現在の図書館ですか？

大槻 ええ。これは大事にしてくれ、大事にしてくれて先生くり返し言いましたね。

津山 一度あつちね、園芸場の方にあつたでしょ？

大槻 昔の図書館が壊された時にね、建築工事の間一時、園芸場にもつていった。

津山 樹勢がずいぶん弱りましたよ、切りつめて。

大槻 雄花でも見ようと思つていゝんです。

津山 切り込んでいますからね、成長が遅いのもかもしれませんね。

今井 センダン（楷の木かも知れませ
ん。私達はセンダンと教えられていま
し）があつて、コブシがあつて、長塚節の
文章の中のように「早春に咲いて……」。
ちょうどその花の下にレンガが敷いてあつ
たんですけど。そのレンガは薄茶色で渡り
廊下になっていました。あの廊下を「キャ
ラメル廊下」って。（笑）そのような色と
形なんですよね。

津守 それがどこにあつたんですか？

今井 そのキャラメル廊下の外側にコブ
シがあつたんです。

大槻 その後ですよ、家政学部の大学院
が建つ時に邪魔になつて移植した。女高師
時代の卒業生はね、みなあのコブシを懐し
みますね。

今井 あの廊下を通つて。次に沈丁花の
頃ね、そういう毎日を……

大槻 楷の木は、中国の聖木であつて、
これがまたイスラエルの聖木なんです。今

でもイスラエルの巡礼で、「アブラハムの
榿の木」っていう場所があるんです。今の
イスラエルの子孫ですね、これがね、初め
てイスラエルに神の命令でやつて来た時、
初めてその自分の土地を買ひとつた。その
場所の名前っていうのは、その榿の木だつ
た。

津守 榿の木のことなんですか？

大槻 ヨーロッパ人が「榿の木」と誤訳
したので、新しい聖書訳には「レビンの
木」と正してあります。これが榿の木と同
じピスタジオ属で、よく似ています。

津山 そちらのと中国のとは同じピスタ
ジオ属でも種類が違ふんです。

津守 本当は榿の木の親戚になるんです
ね。

大槻 イチョウの木のことで、大塚
に移つてきた頃は小さくて花が咲かなかつ
たので、雄と雌の区別がつかなかった。大
きくなつて雌の木は実がなるようになって

た。そのとき保井先生がね、これはいけな
い雄だけ選んで植えればよかつたといひ出
したことを覚えています。理由は幼稚園児
がかぶれるんですよ。

津山 うちの坊やがね、バケツ一杯とつ
てきたら、全部かぶれちゃつてね（笑）。驚
きました、聞いてはいたけれども。それか
らあれですね、もとの家政の研究所（食化
研）と理学部本館の間に、ユリの木（チュ
ーリップの木）がすつと背高く……。あれ
はだいたい花が高いとこしか咲かないわけ
です。きれいでしょ、あの朱黄色を帯びた
緑の花。それがちょうど理学部一号館の高
い所からよく見えるんですよ。

今井 ええ旧食化研の三階のちょうど非
常階段のまん前にはだかつて、たつていま
した。

津山 多くの方は見ていないんですね、
それ位じゃないと見えませんものね。実
は、チューリップ「の木」というのは、ア

メリカのものなんです。中国でも別の種類、シナユリノキが……。僕はこれをこっそり一本あそこに植えてあるんです、あとで見てください。(笑)

シンジュ・サクラ・ツバキ

津守　そして、今の人間文化棟が建つ前、前方が土手でしたよね、あそこで津山先生にネジバナだなんて教えてもらって……。あそこらへんからずっと護国寺門へ降りていくあたりは、何か昔の風情が残っていましたね。

津山　シンジュがね、あれはりっぱですよ。この木の由来は書いてあるでしょ。「学園だより」22号に、吉松藤子先生が樗(シンジュ)が植えられた背景を書いておられる。落下傘を作るために絹が必要で、発育の速いエリ蚕に目をつけた軍部が、国策研究を依頼してきた。その時エリ蚕の食葉として届けられた樗の苗木が、今に至っているという。——編集部注]

今井　落下傘に必要でシンジュを植えたって、戦争中風船爆弾を思い出しますね。

津山　花は小ちゃくて目立たないんですよ。実が秋に



グランドのサクラ

なると赤い羽のついたものね、あれがと
てもいいのですよ。

津守 エキゾチックなんで、日本のもの
ですか？

津山 中国原産です。

津守 それから、護国寺の方へ降りてい
くところにアジサイがずいぶんたくさんあ
るみたいですけど……。

今井 アジサイは、旧食化研の周囲と
か、プールのそばにも……。

津守 この家政の建て物に沿っても……

津山 大学の構内にはわりと針葉樹を植
えなかったようですね。女子大ということ
でね。それからもう一つはね、東京にある
女子大には、たいいてい桜があるんですね。

ここでは八重桜がグラウンドの端でしょ。虫
がつくので、やっぱり避けたんじゃないか
しら。

今井 あ、先生、八重桜はね、いろいろ
な種類があったんですよ。鬱金とか、御衣

香とか……八重桜の代表、牡丹とか……。

津山 今ね、中学校に沿った所しかな
いでしょ、もつとあったんですか？

今井 旧体育館、今の理学部の一号館の
ところまでずっと……。

柳田 女高師のあった、あのお茶の水の
あそこは江戸時代に桜の馬場と呼ばれた地
ですね。それに因んで校章も桜、附属の同
窓会は作楽会ですし、大学は桜蔭会。本学
にとつて桜は貴重なシンボルなんです。

津山 桜で思い出したけど、野口明先生
が寄贈された枝垂桜ね。あちこち移植され
て、大分傷んだり、枯れたりしましたね。

今井 はじめはおぼけみたいで、どこが
いいんだろうって。

津山 立派ですよ、僕はいいですよ。
(笑)

今井 今は卒業式の頃、あの中庭に咲い
ているのはいいけど、虫がついてね。

津山 つくんですよ。茶につくのとは

別のものですけどね。やっぱり消毒してい
ますか？

大槻 いま津山先生のいきがかかってい
る椿がたくさん学園にふえましたね。

今井 生協の下から右にかけての椿もで
すか？

大槻 花期は過ぎたけれども、今日もま
だ咲き残っていますね。

今井 コンクリートの中で、日照りの時
にムシが出るんです。

大槻 椿の名所といたい位、全国の椿
が集められています。

津山 あそこに一つだけ面白いのがね。
屋久島特産のリンゴ椿という、直径六―七
厘の実がなるの。それでちょっと日に焼い
てね、リンゴみたいになる。

||了||

☆

☆